

合同発表会は今後も 継続が82%

合同発表会に関するアンケート調査

関さんのお骨折りでアンケートが両クラブの会員に配布されたが、27名中17名から回答があり、このほど合原OMC会長の手で集計された結果が発表された。その結果合同発表会は今後も継続すべし、という声が82%に達し、他の「来年もう一度開催して様子を見る」18%、今年限りで止める0%を抑えた。発表会あつてのOMCであることの認識をあらたにした次第である。

■会場は朝日生命ホールにこだわらず、の声が71%で最多

朝日生命ホールは立派なホールであることは皆が認めるところであるが、何分ホール使用料だけで16万円もかかり、他の経費も含めると30万円もかかり、会員数の減少に悩む両クラブ共、経費負担に耐え切れなくなっているのも事実。総経費を全額出品者負担とすると、現状1万5千円の出品負担金が2倍以上にはね上がってしまう。今まで発表会に3万円も払うという経験がなかっただけに重く受け止める人が多いのもうなづける。こうした点から、もう少し会場費の安いところを探そうという気になるのも無理からぬところ。もう一つは、観客数が以前は300名前後を集めて朝日生命ホールをほぼ満員にした時代もあったが、最近では、上総さん等のご努力もあって何とか200名の大台を保ってはいるものの、OMCの映像を楽しみに来て下さるファンはせいぜい150名程度と推察されるのも客観的事実であろう。適当な会場があるかどうかはこれからの課題であるが、探してみたい。

■作品のレベルも課題、一定の基準を設けよとの声多し

月例会の延長のような発表会では困る、という声が集約される。未発表で年一作の自信作を出品出来るよう各人の努力を待つしかない。

■いい作品が集まらない場合は、他のクラブ員にも発表の場を提供する案も

発表会として、あるレベル以上の作品を選別したり、出品料の関係で本数が足りない場合は、発表の場を持っていない他のクラブの個人の中から賛同者に発表の場を提供する方法も考えられる。その場合は出品料は出品者にきちんと取めていただく、ということになる。しかし出来るなら会員さんの作品だけで立派な合同発表会にしたいものである。

会の運営についてのアンケートの結果

■「いつまでも存続させるべきだ」が70%

当然の結果であるが、「我々がこの世から消えたときには、クラブの消滅も止むを得ない」と冷めた目で見られておられる方も30%ほどおられる。これは現実的に若い人が入って来ない、ということからの声と思われる。そこで会員さんをどのように拡げていくべきか、という設問には「映像活動をしている若い人に会い、直接入会を勧誘する」46%、「あらゆるマスメディアを使い、入会を呼びかける」46%、「会費を安くする」8%、と意見が分かれたが、結局はどれかを一つやればよいというものでなく、すべてやってみるという総合的な対策と考えられる。次の設問で、入会促進活動に対して各人の取組みを設問した結果は64%の方が積極的に取組むという心強い返答を頂いた。

会費は年1 会費万円に引下げ

11月例会に先立つ世話役会で、合同発表会への拠出金を大幅に減額するのであれば、会計も楽になるので会費の再値下げも可能と云うことになり現行年額1万2千円を1万円（半期5千円）に引き下げることに決まった。

これは15～6名をベースにして何とかやっていける額で、会員さんが増えればその分ゆとりをもった運営が出来るようになる。

会計担当は森保信氏へ委嘱

増田氏の死去に伴い、会計担当が空白になっていて会長が暫定的に兼務されていたが、このほど森保信さんが心よく引受けて下さったのでお願いすることになりました。ご苦勞をお掛けしますがよろしく申し上げます。また司会と書記は前年通り有村、関、合原の3氏により持回りで担当すること、及びデッキ操作は岡本氏に主な担当をお願いしました。

11月例会のレポート

11月例会は会場の都合で、第3土曜日に変更になったせいも、当初集まりが悪く淋しかったが、始まってから次第に増えて終ってみたら、いつもの賑や

かな会となっていた。皆さん何かとお忙しいでしょうが、どうかお早目に。今月の例会進行は司会、関氏、書記、合原氏、デッキ操作前田氏が担当。

★例会の出席者：有村、井田、今井、岩井、江村、岡本、上総、合原、関、越本、花岡、田中、前田の13氏。

■上映作品

1. 秋の風景と公園 石垣氏 9分
千里万博公園での実技講習会を兼ねた撮影会作品。最初は講師の話しが長く出て、さて本番の風景を撮影されている。作者の従来からの撮影ぶりから見れば、大変落ち着いて撮られていて講習会効果？があがったのではないか……。ラストの方でカメラマンが写るが、最初から入れるならともかく、ラストだけ入れるのはどうかと思われる。途中のフェードも不用で、フェードのところで終わった方がよかった。
2. 夏・上高地 前田氏 6分50秒
先月は「春・上高地」だったので、これはその続編。前回変な色ノイズが出たので、今回再び同じ編集機材で編集してみたとのこと。しかし今回は全く色ノイズがなく、原因について色々と話題になったが、結局のところ分からず仕舞。8ミリフィルム時代になかったノイズは今後も悩みの種になりそう。さて、作品はBGMが作者ならではのパソコンを使っての自作の演奏で羨ましい限りだが、かなり根気のいる作業とか。我々凡人にはとてもマネの出来ない作者の特技である。映像は1ヶ所だけ現録が出るのはむしろ無い方が良いのではという司会からの意見が出された。
3. 赤目の溪流 有村氏 6分40秒
厳寒の2月、若葉の5月、紅葉の11月と3回も行かれて赤目の季節感を表現しようとした映像。赤目に魅せられた作者の執念のようなものが感ぜられる。今年の秋は紅葉が綺麗でなかったとのこと。清流に泳ぐ魚が印象的、滝のシーンはスロー、ハイスピード、いろいろ使って表現された由。見終わって「綺麗すぎる」と外野の声があがった程美しい映像であった。タイトルの事態についてワープロの字体が味がないので、手書きがよいのではとの声があがった。
4. 橋のある風景 合原氏 5分40秒
作者にしては珍しいノンナレの短編だが、やはり合原作品らしいナレーションが欲しいとの声も。瀬戸大橋を地上からと、船上からと描いていて、桃山風な御座船との対比を描きたかったと作者。それにしては絵づらが少し足りなかったようだ。
5. 秋・大台ヶ原 江村氏 8分30秒
江村氏久々の出品作品。手持ちのカメラワークで動きのある絵づくりがなされておられ、フィルム時代の往年の江村作品の復活？をしのばせるに十分な絵づくりで、話題を独占した。それにしては説明的で平凡なカットはかえって邪魔だとの意見が出された。また題名が平凡で、こういう作品は地名は無い方がよ

い、との声も。駐車場やガードレールの写っているカットも不要のようだ。再編集次第ではいい作品になろう。

毎月第一日曜日、作品研究会開催

今後、新規の入会者のためや、お互いの会員さん同志で作品の構成、編集などの勉強の場が欲しいとの声もありますので、毎月第一日曜日2時より合原会長宅を開放します。ご希望の方は事前にご連絡(06-833-9227)のうえ、ご遠慮なく作品ご持参のうえお集まり下さい。お待ちしております。

12月例会のお知らせ

12月例会は第3土曜日、午後6時より、阿倍野市民学習センターあべのベルタ3階)にて、今年最後の例会です。楽しい納会にしましょう。今月は1週間早くなっています。お間違いのないようにお願いします。

新年宴会は1月12日、 どうぞお集まりを!

■恒例の新年宴会を下記の通り関西シネクラブと合同で行います。年1度の楽しい懇親の集いにぜひご参集下さい。同封のハガキに出欠を会長まで年内にお知らせ下さい。なお、取消しの場合は前日までに願います(無断欠席の際は会費要)。

日時 1月12日(日)18時~

場所 上六・天山閣(下図)

(06-763-3757)

会費 7,000円

